



3月ほけんだよ!

日乃出保育園
平成31年3月1日



耳をのぞいてみましょう!!!

子どもの耳を観察してみてください。
びっくりするほど耳あかが溜まっていることがあります
溜まりすぎていると、耳の聞こえが悪くなったり、プールに入ると水でふやけて鼓膜を圧迫したり、時には菌が繁殖して、外耳炎を起こす事もあります。耳あかが、見えていても無理にとらずに耳鼻科でとってもらいましょう。

進級・就学を控えて気持ちが不安定になる季節です!

・新年度を控えて多くの子どもたちが、「1つ大きくなる」喜びでいっぱいになる季節でもあり、大人の期待を過剰に受け止めて気持ちが不安定になりストレスを感じている事がないか子どもの行動を観察してください!
※次のような行動があったらご相談して下さい。

- 爪かみ
- 目をパチパチする
- ゆびしゃぶりが始まる
- どもりが始まる
- 肩をピクツとさせる・・・など



中耳炎とは?

・中耳炎には様々な種類があり、特に多いのが急性中耳炎と選出性中耳炎です。中耳という小さい空間が鼓膜の奥にあり、正常であればこの空間には空気が入っていますが、ここに異常が起こり膿(うみ)や水が溜まるのが中耳炎です。

どのような症状が出るのか?

・急性中耳炎は、かぜをひいて鼻水が多いときなどに、鼻の奥と中耳をつなぐ管(耳管)を通して、細菌やウイルスが中耳の中に入り起こるものです。鼓膜の奥で細菌やウイルスが活動して膿が溜まるため、急に耳が痛くなり、熱が出ます。その後鼓膜が破れて耳だれが出ることもあります。

中耳炎にかかりやすい年齢?

・急性中耳炎は母親からもらった抗体が少なくなる生後6カ月頃から2歳頃までがかかりやすい年齢です。滲出性中耳炎は、3歳頃から小学校低学年までによく起こります。成人でもかぜをひいたときに一時的に起こることがあり、高齢の方はかぜとは関係なく、治りにくい滲出性中耳炎にかかることがあります。

子どもはなぜ繰り返し中耳炎になるのか?

・子どもは耳管の機能が未発達で、中耳に細菌やウイルスが入りやすいこと、免疫機能が未発達なうえに、集団生活をしていることが多く、上気道感染(いわゆるかぜ症候群)を起こしやすいことなどが原因です。中耳炎を繰り返しやすいのは、これらの条件が重なっているものと考えられます。

生活で気をつけたい事?

・プールやお風呂で水が耳に入って中耳炎になることを心配される人も多いようですが、そのようなことはありません。中耳に感染が起こるのは、耳の穴からではなく耳管を通して鼻の奥にいる細菌やウイルスが中耳に入ってくるからです。鼻水が多いときに中耳炎になりやすいので、できるだけかぜをひかないように気をつけて、鼻水が長く続いているときには耳のチェックが必要です。

